



オミクロン株の感染が爆発しています。2月は当院の検査でも陽性率がかなり高かったです。コロナ感染の疑いがある方の検査の為に一階裏に特別検査室を設けました。車で来られた方には車内で検査もしています。発熱外来を含めて午後の2時間限定です。他の方への感染防止の為に、ご協力ください。一階表の一般待合室には、熱のある方や感染症の疑いのある方は決して入らないでください。病気を持った身体の弱い方が来ているので、注意してください。オンライン診察や電話診察も増えています。

コロナ感染で死亡者は殆ど高齢者であるということも、免疫力の問題だと思えます。普段元気でも、身体にも余力や貯えがないと病気や感染の時の回復力が足りません。ゴルフをして最後の方になると疲れ切ってしまうのは、体力が落ちてきている時です。夫婦でゴルフをしようとお互いの健康度がチェックできます。身体が弱くなって労働することも大事ですが、たまには負荷を掛けないと、更に弱くなってしまいます。

ところが、身体が頑健に見えても、免疫力がない人もおられます。免疫力と体力を混同しているようです。食生活が悪く、生活が乱雑な人が感染したら、かなり症状が悪くなりました。楽しむことも良いけれども、身体に適切に栄養を与えないで無理をすると、ひどいしっぺ返しを受けます。

高齢者の身体は少しずつ衰えてきます。その兆しは、しわ、シミ、髪の毛、筋肉量、足腰や関節の強さ、歯、内臓や消化力などに現れてきます。失礼ながら、それを受け入れると加齢に負けてきます。歳を取って、病気や障害を持つと、回復は困難になります。精神的にも弱くなります。

8年前、身体が弱くなり、引退を考えましたが、そうもいかないし決心して体力強化と免疫力強化を図りました。体組成計で筋肉や脂肪など身体をチェックし、血液検査で健康度を調べます。栄養確保は、歳を取ると食事だけでは無理だと気が付き、サプリメントが増えました。摂り忘れると、膝が悪くなったり、身体が凝ったり、身体が重くなったりして、慌てて補給します。アツプルウオッチで運動量をチェックし、管理します。美食に溺れたり、粗食に甘んじると、直ぐに身体に変化があります。その変化に気が付かなくなったら、回復ができなくなると自らを戒めています。長湯に浸かりながらの読書も味わい深いものです。若い時にはあり得なかった身体への労りが、自らへの慈しみと愛着を感じます。老いを楽しみ、老いに負けまいと意地を張っています。

事務長 柏崎久雄

感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の子どもの方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いに協力ください。

★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押してください。

★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

ヨーゼフのキャンペーン

CoQ.10、αリポC、亜鉛プラス、ヌクレオBコンプレックス 緊急免疫セット

3月1日(火)~4月8日(金)

聖書を読む会 3/15(火)13時40分

- * 新型コロナウイルスの感染が警戒されています。院内に入る前にマスクを付け、入り口に置いてあるアルコール消毒薬で手を十分に殺菌してください。周りの人にご配慮ください。トイレは待合室毎に指定の所をご利用ください。
- * 発熱外来と新型コロナウイルス検査は14時から16時だけで、予約が必要です。来院時は裏のインターホンでお知らせください。コロナ検査だけの方は一階奥に設けた特別検査室で行います。通常診察は、この時間は受け付けません。
- * 車内で検体採取などがあるので、当院駐車場の利用は当院の受診時間だけにしてください。薬の受け取りなどは駐車場を出てからしてください。検査ができなくなるので、ご協力ください。
- * 予約診療を来院による普通診療と並行して受け付けています。ウエブ問診も始まっています。受診時に記入する問診票を事前入力できます。オンライン診療もおこなっております。ホームページ下のタブより申し込んでください。電話再診もご利用ください。
- * 病児保育は、他院で受診しても、当院院長の診察を必須条件として利用していただけます。
- * ヨーゼフでは「自宅療養お食事セット」の販売を始めました。詳細はオンラインショップをご覧ください。
<https://yozeponline.com/view/item/00000000573>

< 新型コロナウイルス最新の情報 >

新型コロナウイルス感染が急激に増えているので、最新情報をお伝えします。

当院で陽性確認した方々では、ワクチン接種や感染経験のある方々がいて、実感としてはワクチン接種に関係なく感染しているようです。また、主に高齢者が死亡していると報告されているので、その点も取り上げます。

1. 感染増強抗体

大阪大学微生物研究室免疫科学分野の荒瀬尚教授が2021年5月に論文を発表されました。ワクチン接種や感染で中和抗体が作られますが、同時にウイルスと細胞の結合を促進させ、中和抗体の働きを弱めて感染を増強させる「感染増強抗体」も作られているということです。

「感染増強抗体」は、体内の細胞とウイルスの結合を促し感染を増強させる抗体で、6種類ほど存在することがわかりました。この「感染増強抗体」は重症者から多く見つかり、感染を防ぐ働きをする中和抗体（ウイルスのタンパク質に結合して活性を中和し、細胞への侵入を防ぐ抗体）の効果を弱めていたことがわかっています。そして、感染だけでなく、ワクチンによってもこの抗体が産生されるのです。

「感染増強抗体」は、ウイルス表面の突起状になったスパイクの先端部分を変質させ、新型コロナウイルスが細胞へ感染するときの受容体であるACE2（細胞の表面に存在する受容体タンパク質）と3倍程度結合しやすくする働きがあります。

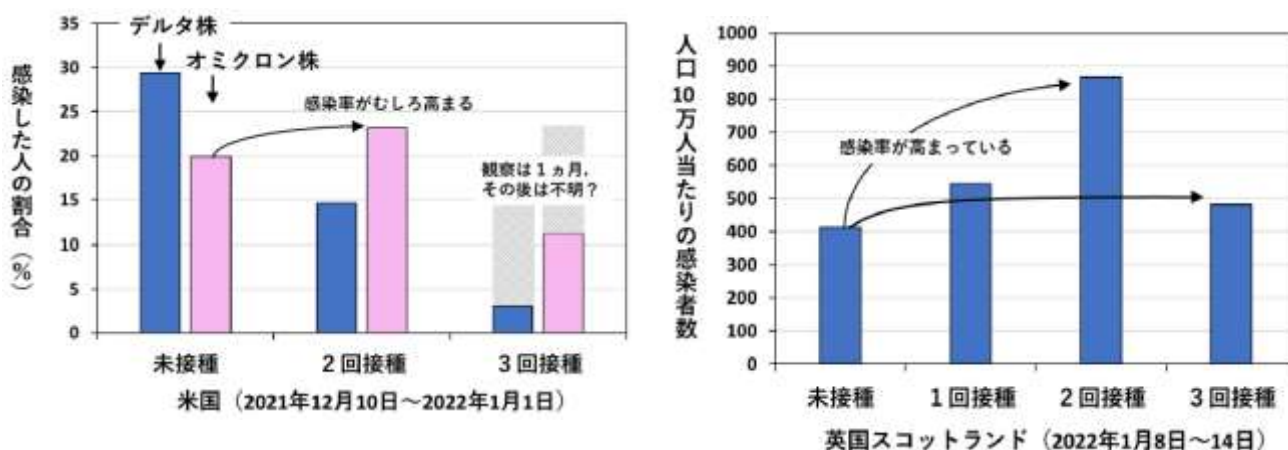
荒瀬教授の研究でわかったことは、感染していなくてももともと「感染増強抗体」を持っている人がいて、そういう人が感染した場合には中和抗体よりも先に産生されてしまい、重症化する可能性があるということです。

ウイルスは中和抗体が嫌いで「感染増強抗体」は都合が良いので、多くの変異ウイルスで「感染増強抗体」が認識されています。ウイルスは中和抗体に認識されないように変異を繰り返しています。そして、ウイルスの変異が進んでくると、中和抗体が効かなくなって、感染増強抗体が優位になる可能性も否定できません。

オミクロン株は、そのようにして変異した結果であって、だからこそワクチンが効かなくなっているのではないのでしょうか。

2. ワクチン接種で感染は収まるか？

岡田正彦新潟大学名誉教授・医師のサイト (<https://okada-masahiko.sakura.ne.jp>) には、ワクチン接種後の感染状況の報告があります。

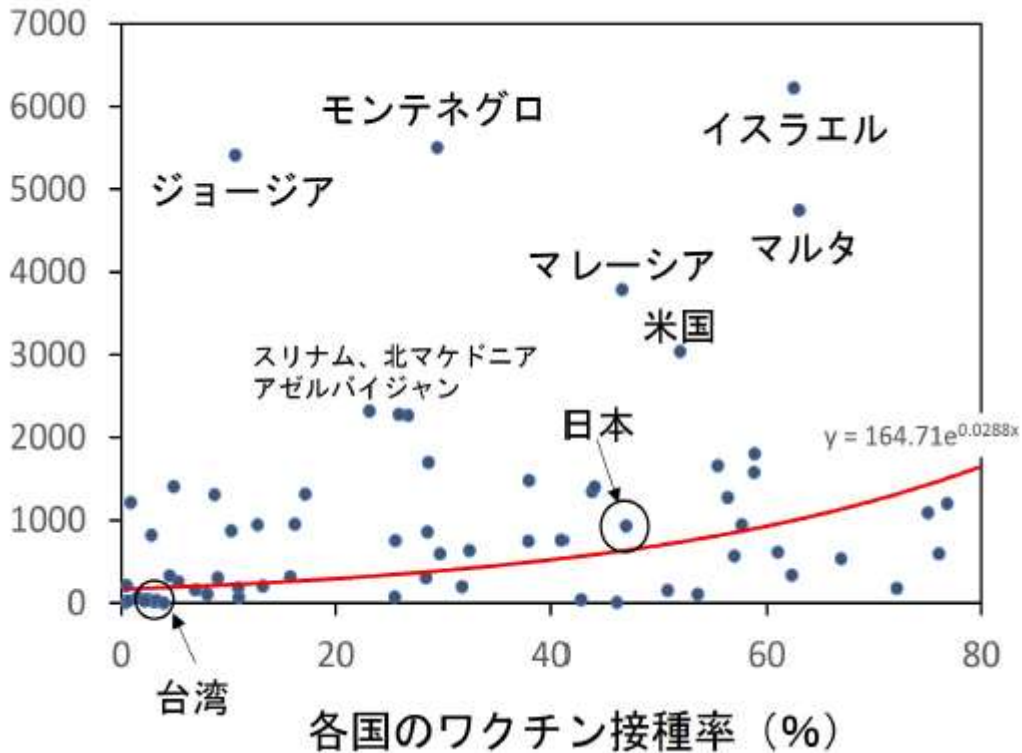


フランスの高齢者施設でも入居者と職員176人のうち、106人が接種を受けて70人が未接種でしたが、感染が広がり5日後の状況は、ワクチン接種の人の感染者19名(18%)、ワクチン未接種の人の感染者10名(14%)だったそうです。

アメリカとカナダの研究者が2021年9月に発表した論文で以下のグラフが示されました。世界68か国の記録を分析すると、「ワクチン接種率が高い国ほど、新規感染者数が多くなっている。」とのこと。

人口百万人当りの新規感染者数

(2021年8月28日～9月3日)



3. コロナワクチンでもたらされる自己免疫疾患

岡田教授によると、ワクチン接種した人が全てではないですが、以下の症状が現れることが報告されています。関係ないと思わないで、これらの症状に注意してください。

① 免疫性血小板減少症

血小板は、出血を止める為に必須です。ワクチンで再合成されたコロナのスパイクタンパクが血小板表面にある糖鎖に結合しやすく、その先端部（シアル酸）を切断する酵素のような働きをします。免疫細胞は、そのような血小板の異常な形を認識して攻撃してしまいます。これが自己免疫疾患です。症状は、皮膚の点状出血、広範な皮下出血、鼻出血、歯茎の出血、不正性器出血、脳出血です。

② 免疫性心臓病

mRNA のワクチンで心筋炎が起こりうるのですが、心外膜炎や心臓周囲組織の炎症がもたらされる人も多く報告されており、接種者 100 万人当たり 12.6 人です。

③ 免疫性皮膚病

1 回目の接種から 1～2 週間してから、注射とは異なる部位に蕁麻疹のような変化を認めた人が半数近くいました。

④ 免疫性感染症

高齢者を中心に 2 回目のワクチン接種の後 10 日ほどしてから、蜂窩織炎（ほうかしきえん。皮膚が赤く腫れて、蚊に刺されたような赤い点々が広がり患部を押すと痛みを感じる）、急性腎盂腎炎、肺炎、不明熱など炎症を伴う病気が現れる。これは岡田教授の感想です。

その他、詳細にお知りになりたい方は岡田教授のサイトをご覧ください。

4. 安全なワクチン、効く薬はあるのか？

国産ワクチンが開発されてきていますが、どれもスパイクタンパクを作り出す点で、これまでのワクチンと違いはなく危険であると思われます。

① 抗体カクテル

スパイクタンパクがヒトの細胞の受容体と結合しないようにブロックする人工の中和抗体です。2 種類を作って混ぜたのでカクテルと言います。日本では中外製薬がライセンス生産をおこなって点滴薬として用いられ始めています。

② イベルメクチン

本来、家畜の寄生虫駆除の為の薬です。岡田教授によれば、有効性を示すエビデンスはないということですが。

③ モルヌピラビル

メルク社が開発した飲み薬ですが、信頼しうる臨床試験がないと言われています。この薬がウイルスのRNAを書き換えて死滅させるという働きをするので、ヒトのDNAへ組み込まれる可能性が指摘されています。

④ デキサメタゾン

昔からあるホルモン剤。重症者での有効性が確立されています。他の開発中の薬も効果は否定的なものばかりだそうです。

5. 免疫力の保持、強化について

現代医学は、症状に対する薬剤による治療を基本としています。しかし、いくらワクチンを開発しても、身体の免疫力である抗体に依存しているのです。ところが、その抗体を作りだすための至適栄養は考慮していないのです。ですから、先月の機能性医学の説明で述べたように、現代医学では慢性疾患は治せないのです。

個人の健康を保持する至適栄養を標準化することはできません。性別、年齢、体格、活動量、体調、遺伝素因、ストレスの状況、その他多くの要因によって栄養の必要量は変わってくるのです。例えば、免疫系の中心である白血球の数は、基準値 3,500~9,700/ μ L とされていますが、感染すると 50,000/ μ L にもなり、それを超えると白血病や敗血症その他の病状が予想されます。その白血球は、毎日 1,000 億個程度作られ、感染があるとその何倍もの量が必要になるわけです。

[免疫強化の為のサプリメント]

- ・オリーブ葉エキス；免疫力の向上、ウイルスから身体を守る土台作り
- ・タンパク質；免疫細胞や抗体などの主成分
- ・グルタミン；免疫細胞のエネルギー源
- ・ビタミンA；IgA 抗体の産生、粘膜や上皮細胞の正常化
- ・ビタミンB群；感染により白血球が急増するとビタミンB1が大量に消耗する
- ・ビタミンC；マクロファージの遊走能向上、キラーT細胞の活性が高まる
- ・ビタミンD；免疫物質の分泌に関わる
- ・ヘム鉄；粘膜の機能維持、免疫細胞の強化、線毛運動の活性化
- ・亜鉛；粘膜や上皮細胞の合成、亜鉛不足だと胸腺やリンパ系組織の萎縮が起こる
- ・水溶性食物繊維；有用菌のエサとなり、腸内環境を整える

[免疫強化の生活と食事]

- ・十分な睡眠と休息
- ・1日1万歩以上の運動
- ・温かい浴室で40℃くらいでゆっくり入浴。水分も補給。
- ・緑黄色野菜、乳酸菌、納豆、胚芽米、よく噛んでゆっくり食事
- ・休憩を取る。横になる。身体を冷やさない。身体のマッサージで血流を促す。
- ・精神的ストレスを溜めない。人との交流を保つ。

《 診 療 時 間 》

月曜～金曜（午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分）

土曜（午前8時30分～11時30分、午後2時～4時30分）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養医学(分子整合医学)



(携帯サイトへ)